

5月のおすすめ本

『#KuToo(クートゥー) 靴から考える本気のフェミニズム』【分類 1101/イ】

石川優実/著 現代書館 2019年

「いつか女性が仕事でヒールやパンプスを履かなきゃいけないという風習をなくしたいと思っているの。男の人はぺたんこぐつなのに」という著者石川優実氏のツイート（書き込み）が職場でのパンプス義務付け反対運動「#KuToo」を展開するまでとなりました。

「#KuToo」は「#MeToo」をもじって「靴」と「苦痛」を掛け合わせています。本書は、「#MeToo」の解説から「#KuToo」までの流れ、実録、対談が記載されています。本書を読んで社会運動「#KuToo(クートゥー)」を一緒に考えてみましょう。

『よくわかる国連「家族農業の10年」と「小農の権利宣言」』【分類 2209/シ】

小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン/編 農山漁村文化協会 2019年

近年、種子は、多国籍企業の利潤の手段となってきています。企業が特許を持つ種子を農薬・化学肥料とセットで買わなければならないのです。危機感を持った世界各地の農民たちは在来種子を守ろうと立ち上がりました。韓国では女性農業者が保全運動を開始しますが、種取りができたのは伝統農法の知識をもつハルモニ（おばあちゃん）だけでした。国連の持続可能な開発目標 SDGs では小規模・家族農業が見直されていますが、それはなぜか本書にわかりやすく書かれています。おすすめです。

『子育てとばして介護かよ』【分類 4102/シ】

島影真奈美/著 KADOKAWA 2019年

介護は突然訪れます。この本の著者は、35歳で子どもをつくるつもりが、仕事に大学にと飛び回るうちに、気付けば40代。自分の描くライフプランが狂い始めていると感じた頃、夫の両親の言動がおかしいことに気づきます。病院の受診や介護サービスに乗り気でない両親を気持ちよく導く方法や、同居していない場合にどのように介護を進めていくかの事例を学ばせてくれる本です。

福島県男女共生センター図書室 3階